

高 月 南 遺 跡

第 53 次調査報告書

—住宅建売分譲地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—



2014・3

滋賀県長浜市教育委員会

高 月 南 遺 跡

第 53 次調査報告書



2014・3

滋賀県長浜市教育委員会

序 文

滋賀県の北東部に位置する長浜市は、近畿・北陸・東海の交通の要衝にあたり、古くよりこの3地域を中心とした様々な文化が織り成す、数多くの文化遺産があることで知られています。これらの先人たちが残した文化遺産は、市民だけではなく、広く多くの人びとに開かれた共有の財産であります。

私たちの生きる現代は、物資や情報があふれ、豊かで便利な時代である反面、自然や物の大切さ、伝統や歴史を重んじる心などが希薄になりつつある時代であるといえます。

このような時代に生きる私たちであるからこそ、先人たちの築いてきた歴史や文化を見つめなおし、その中に生きる先人たちの知恵を学ぶ必要があるのではないのでしょうか。

長浜市教育委員会では、これらを現代に生かし、なおかつ未来に向けて末永く伝え残していくため、文化財の保護・活用・啓発などに日々努めております。

本報告書は、平成 25 年度に長浜市高月町宇根地先において実施した高月南遺跡の発掘調査報告書です。高月南遺跡は、縄文時代から平安時代にかけて存在したとして周知された遺跡です。過去に数回の調査が行われており、竪穴住居・掘立柱建物跡の建物群や方形周溝墓・古墳・土坑墓など多くの調査成果が得られています。今回の調査でも古墳・溝状遺構・柱穴などの遺構が検出されています。

今回刊行したこの報告書が、長浜市の歴史や埋蔵文化財をより深く理解していただくうえで、幾分でもご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査の円滑な実施にご理解とご協力をいただきました地元の方々、ならびに関係機関に対しまして厚くお礼を申し上げます。

平成 26 年 3 月

長浜市教育委員会
教育長 北川 貢造

例 言

1. 本書は、平成 25 年度に長浜市教育委員会が実施した、住宅建売分譲地造成工事に伴う長浜市高月町宇根地先に所在する高月南遺跡の第 53 次発掘調査報告書である。
2. 本調査は、長浜市教育委員会が民間事業者からの依頼を受け実施したものである。
3. 試掘調査、本調査並びに整理調査は、尾崎が担当した。
4. 本書で使用した方位は磁北、高さは東京湾平均海面高度、遺構埋土等の土色については標準土色帖に基づいている。
5. 遺物や写真、図面等については、長浜市教育委員会が保管している。
6. 本調査の実施にあたり、地元の方々並びに関係機関の御協力とご理解をいただいた。記して謝意を申し上げる。

目 次

序文・例言・目次

第1章 調査の経過	1
第1節 調査にいたる経緯	1
第2節 発掘作業の経過	1
第3節 整理作業の経過	1
第2章 遺跡の位置と環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の方法と成果	4
第1節 調査の方法	4
第2節 調査の成果	5
(1) T1 調査区について	
基本的な層序	5
遺構	5
(2) T2 調査区について	
基本的な層序	6
遺構	6
(3) 遺物	14
第4章 総括	16

表目次

第1表 高月南遺跡第53次調査土色・土質一覧表	4
第2表 高月南遺跡第53次調査遺構規模一覧表	13
第3表 高月南遺跡第53次調査出土遺物観察表	14

挿図目次

第1図 調査区位置図	1
第2図 長浜市の位置	2
第3図 長浜市周辺の地形	2
第4図 高月南遺跡と周辺の遺跡	3
第5図 調査区配置図	4
第6図 SD1 平面・断面図	5
第7図 SD2 平面・断面図	5
第8図 SP1 断面図	6
第9図 SZ1 平面・断面図	6
第10図 古墳の位置関係図	7
第11図 SZ2 平面・断面図	8

第 12 図	SZ 3 平面・断面図	8
第 13 図	SZ4 平面・断面図	8
第 14 図	SZ5 平面・断面図	8
第 15 図	SZ6 平面・断面図	8
第 16 図	SZ16 平面・断面図	8
第 17 図	SK 1 平面・断面図	9
第 18 図	SK 2 平面・断面図	9
第 19 図	SK 3 平面・断面図	9
第 20 図	SK 4 平面・断面図	9
第 21 図	SD 3 平面・断面図	9
第 22 図	SD 4 平面・断面図	10
第 23 図	SB 1 平面・断面図	10
第 24 図	SP (SP 2 ～SP23) 平面・断面図	11
第 25・26 図	調査区 (T1、T2) 平面・断面図	13
第 27 図	出土遺物実測図(1)	14
第 28 図	出土遺物実測図(2)	15
第 29 図	高月南遺跡南西部調査状況	17

図版目次

図版一	調査前全景（北から） 重機掘削状況（西から） トレンチ 1 遺構検出状況（西から）	トレンチ 2 SZ 5 ・SZ 4 完掘状況 （北から） トレンチ 2 SZ 5 （南）・SZ 6 検 出状況（北から）
図版二	トレンチ 1 作業風景（西から） トレンチ 1 遺構完掘状況（東から） トレンチ 1 SD 1 検出状況（東から）	図版七 トレンチ 2 SZ 5 （南）・SZ 6 SZ 7 検出状況（北から） トレンチ 2 SZ 6 ・SZ 7 完掘状況 （南から） トレンチ 2 完掘全景（北から）
図版三	トレンチ 1 SD 1 完掘状況（東から） トレンチ 2 SZ 1 検出状況（南から） トレンチ 2 SZ 1 完掘状況（南から）	図版八 出土遺物（1） 図版九 出土遺物（2）
図版四	トレンチ 2 SZ 2 検出状況（北から） トレンチ 2 SZ 3 検出状況（北から） トレンチ 2 SZ 3 完掘状況（北から）	
図版五	トレンチ 2 SZ 3 内遺物出土状況（北西から） トレンチ 2 SZ 3 内遺物出土状況（北西から） トレンチ 2 SZ 3 ・SZ 4 完掘状況（南から）	
図版六	トレンチ 2 SZ 5 （北）・SZ 4 検出状況（南から）	

第1章 調査の経過

第1節 調査にいたる経緯

本調査は、住宅建売分譲地造成に伴う本発掘調査である。

平成25年8月19日に原因者より発掘届の提出があり、平成25年10月8日に高月南遺跡第53次調査として、対象2,453㎡の内、造成工事で破壊を免れないと判断した共用道路および擁壁部分の725㎡について本発掘調査を実施することとなった。

本事業の調査主体は長浜市教育委員会である。

調査体制は、以下のとおりである。

平成25年度

長浜市教育委員会

教育長 北川 貢造

教育部長 中井 正彦

教育総務課理事 福井 清和

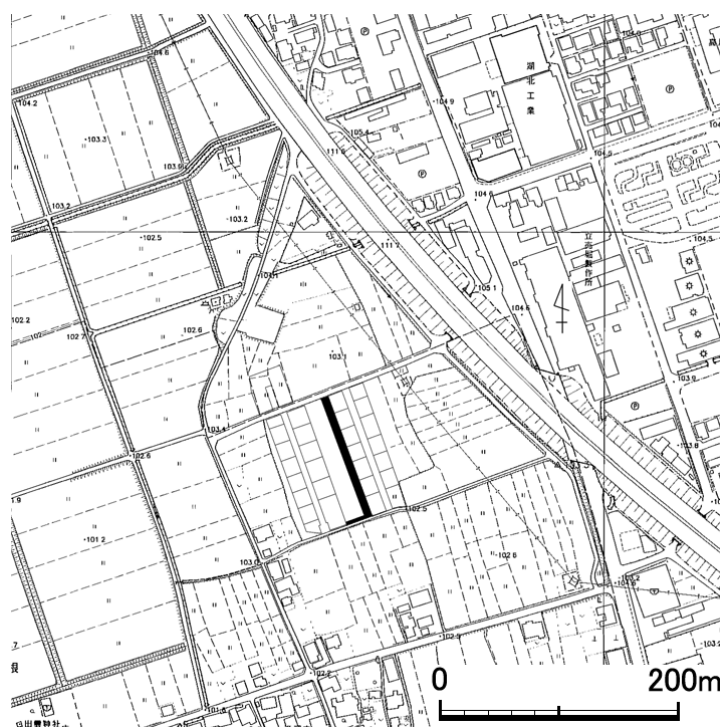
文化財保護センター

所長 森口 訓男

参事 黒坂 秀樹

主幹 尾崎 好則（調査担当）

主幹 池寄 陽一（調整担当）



第1図 調査区位置図

第2節 発掘作業の経過

本発掘調査は、平成25年10月8日から11月22日にかけて実施した。

作業工程は、重機による遺構面直上までの掘削、人力による遺構検出作業、遺構の半截、遺構完掘の順で行い、図面作成などのデータ収集、および記録写真撮影は工程ごとに行った。

発掘作業は、あらかじめ表土を重機によって除去し、遺構面直上までの掘削を行った。

個々の作業の詳細については、第3章調査の方法と成果で述べることとする。

第3節 整理作業の経過

整理作業は、現地発掘作業終了後から、平成26年3月までの期間内で実施した。

出土した遺物は、全て遺物台帳に記入した後、報告書に掲載するものを選別した。

遺物の選別方法は、出土した遺物の内、遺跡の性格や時期等を示し得るもので、実測可能なものについてピックアップした。

ピックアップした遺物については、実測図および遺物観察表の作成を行った後、デジタルトレース作業、並びに写真撮影を行った。

現地で実測した図面等は全てデジタルトレースを行い、必要に応じて編集を行った。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

滋賀県の北東部に位置する長浜市は、市域の北東部に急峻な伊吹山地が広がり、滋賀県と岐阜県との県境をなす脊稜部が金糞岳（標高 1,317m）から伊吹山頂上（標高 1,377m）に続く。

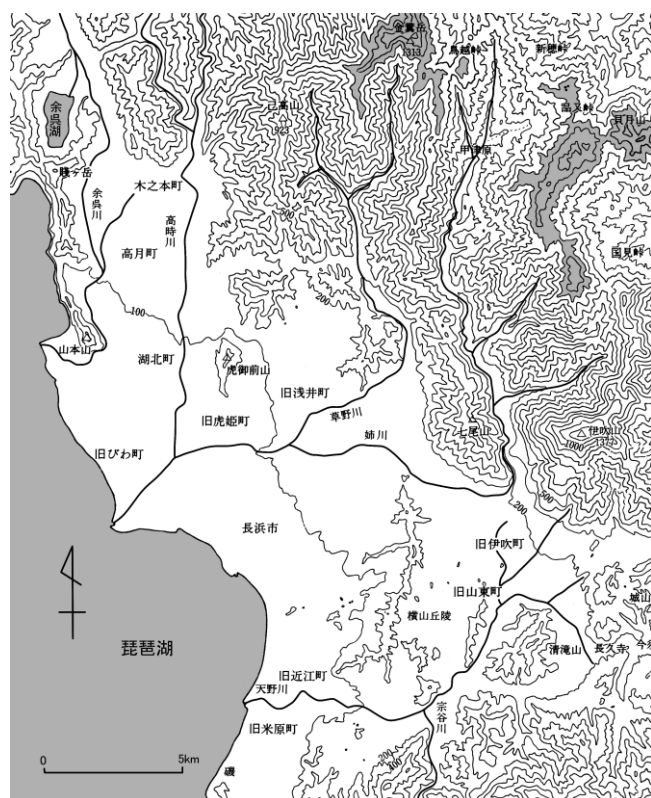
この山地を源流とする姉川、草野川、高時川、余呉川などが南北の谷を発達させて南流し、琵琶湖との間に各河川の平野部が連合して幅 5 km から 7 km の湖北平野を形成している。

低地と山地との境界は、断層運動が繰り返されて形成された断層崖となっている。巨視的にみると北西から南東方向の直線状をなし、敦賀湾、伊勢湾線の一部を構成する柳ヶ瀬断層や関ヶ原断層などの大規模な活断層に一致する。河川はこの断層崖を浸食し、その前面に山地から運搬してきた土砂を谷口から放射状に堆積して扇状地性の平野を形成している。すなわち、北から余呉川、高時川、東から姉川と草野川、南端に天野川が流れ、これらの堆積作用によって平野が形成されている。また、南東部には平野の中央に多数の孤立山塊が分布する複雑な地形となっている。これらは山東低地と呼ばれ、関ヶ原低地帯の西部にあたっている。

気候は、日本海側気候に属しており、最高気温は滋賀県南部の犬上と比べて大差ないが、最低気温は日本海の湿り気を含んだ季節風の影響で低く、冬期には積雪が多い。



第2図 長浜市の位置



第3図 長浜市周辺の地形

地質は古生層で、約 2 億年から 3 億年前の海底に堆積した固い地層からできており、特に平野部では砂岩系や粘板岩が分布している。

市域は東西約 25 km、南北約 40 km、琵琶湖を含めた総面積 680.79 km²（琵琶湖を含む）で、人口は平成 26 年 3 月 1 日現在で 44,348 世帯、122,560 人である。

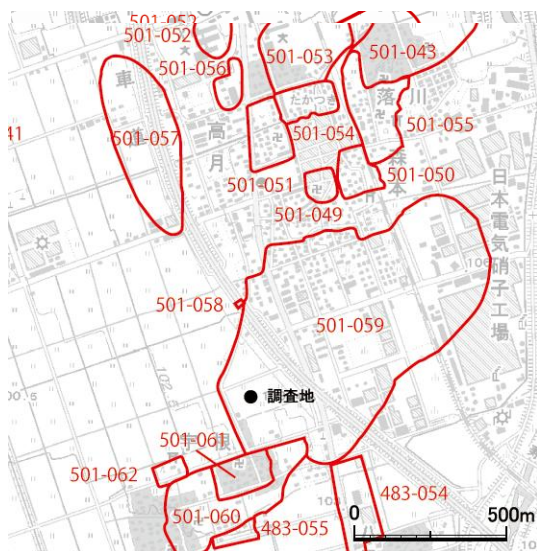
また、市内には JR 北陸本線や、北陸自動車道、国道 8 号線、国道 365 号線が走り、近畿、東海、北陸圏域の交通の結節点として重要な位置にあたる。

歴史的に見ても、北国街道、北国脇往還、塩津街道等の古代からの幹線道路がはしり、古くより交通の要衝として栄え、文化の融合する地域として知られている。

第2節 歴史的環境

高月南遺跡は、長浜市高月町高月・森本・宇根地先に位置し、遺跡は長浜市高月町の平地部東端を南北方向に縦断する高時川右岸の微高地と河川で形成された扇状地の南端に立地している。高時川右岸では、長浜市高月町尾山地先から同宇根地先までの約3.5kmの間に落川遺跡、高月北遺跡、高月西遺跡、大市遺跡、高月南遺跡などが途切れることなく密集して分布することが現在までの調査で確認されている。これらを大きく高時川右岸遺跡群として位置づけ、一大集落遺跡跡（官衙を含む）と推定されるから高月南遺跡も遺跡群の一面を占めているとみられる。

過去に数次の調査が行われており、
 竪穴住居 450 棟以上、掘立柱建物 200 棟以上の建物群や方形周溝墓・古墳・土坑墓・甕棺 70 基以上のほか、井戸・溝・土坑などの遺構が検出されている。建物の中には、大壁造り建物や五角形・円形を呈する竪穴建物も量的に少ないが検出されている。また、18 次調査（2007）において、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての玉造りに関わる遺物が出土しており、少量の碧玉製管玉や未製品をはじめ、砥石、玉砥石などがあり、工房跡とみられる



遺跡番号	遺跡名
483 054	八日市遺跡
501 043	落川遺跡
501 049	森本観音堂遺跡
501 050	森本館遺跡
501 051	高月城遺跡
501 052	高月西遺跡
501 053	高月北遺跡
501 054	高月円通寺遺跡
501 055	大円寺遺跡
501 056	大市遺跡
501 057	狐塚大塚古墳群
501 058	栗原遺跡
501 059	高月南遺跡
501 060	宇根遺跡
501 061	宇根館遺跡
501 062	宇根春日遺跡

第4図 高月南遺跡と周辺の遺跡

竪穴建物が検出されている。その他、紡錘車形石製品や出土例の少ない鶏形土製品も出土している。古墳時代中期から後期には、集落や住居の祭祀に関わる滑石製管玉・勾玉・有孔円板・ガラス玉や土製模造品（鏡、手づくね土器など）・製塩土器・子持勾玉、小鍛冶に関わる炉や鉄滓などが出土している。

次に高月南遺跡（501-059）の所在する高時川右岸地域の周辺遺跡について、所在地ごとに概観する。高月南遺跡の南部から南西部にかけての隣接する地域には、弥生時代から平安時代にかけての集落跡である宇根遺跡（501-060）、平安時代の神社跡で12世紀に作られたとされる神像が現存する宇根春日遺跡（501-062）、城館跡とされる宇根館遺跡（501-061）、古墳時代から平安時代にかけての集落跡である八日市遺跡（483-054）、がみられる。高月南遺跡の北部には、狐塚大塚古墳群（501-057）、古墳時代から平安時代にかけての集落跡である高月北遺跡（501-053）、古墳時代から平安時代にかけての集落跡である落川遺跡（501-043）、古墳時代から中世にかけての集落跡および寺院跡で、竪穴建物・掘立柱建物などの遺構と須恵器・土師器・鉄器などが確認された大円寺遺跡（501-055）、中世城館跡とされる高月城遺跡（501-051）、寺院跡とされる高月円通寺遺跡（501-054）、集落跡とされる大市遺跡（501-056）、神社跡とされる栗原遺跡（501-058）などがみられる。

：（ ）内の数字は、滋賀県教育委員会『平成22年度 滋賀県遺跡地図』平成23年3月で使用されている遺跡番号であり、第4図 高月南遺跡と周辺の遺跡における数字に符号する。

第3章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法

調査は、対象地内に2ヶ所の調査区（T1、T2）を設定して平成25年10月8日から開始し、11月22日まで実施した。

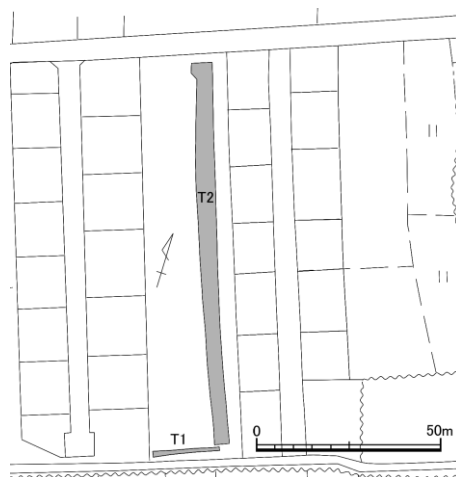
遺構面直上まで重機を使用しての掘削を行い、その後人力により遺構検出作業を行った。

基本的な遺構の掘り下げ方法については、溝状遺構には状況に応じてセクションベルトを設定、柱穴は半截で掘削を行い、断面観察、実測および写真撮影を行った後、遺構を完掘した。

遺物の取り上げ方法については、遺構および層位ごとに取り上げを行った。遺物の状況に応じて事前に平面実測、レベル測定、出土状況写真撮影等を実施した。

全景写真については、遺構検出状況、遺構完掘状況の段階、部分写真については、検出、断面、完掘の時点で、白黒フィルムとリバーサルフィルムを用いて撮影した。

なお、遺構埋土等の土色、土質については、第1表 土色・土質一覧表を、遺構については第2表 遺構規模一覧表を、また、出土した遺物のうち、図示し得たものについての詳細は、第3表 遺物観察表を参照されたい。



第5図 調査区配置図

第1表 高月南遺跡第53次調査 土色・土質一覧

番号	土色帖記号	土色	土質	備考
1	2.5Y5/1	黄灰色	極細粒砂	耕土
2	10YR3/3	暗褐色	細礫・中礫少量混極細粒砂	
3	10YR4/4	褐色	極細粒砂	地山
4	10YR3/1	黒褐色	極細粒砂	SZ1 埋土
5	10YR2/1	黒色	粗粒砂少量混極細粒砂	
6	7.5YR2/2	黒褐色	細粒砂混極細粒砂	SD2 埋土
7	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粗粒砂混極細粒砂	
8	10YR3/2	黒褐色	極細粒砂	
9	2.5Y3/1	黒褐色	粗粒シルト	
10	2.5Y3/1	黒褐色	細礫・中礫混粗粒シルト	SD1・SD3 埋土
11	10Y3/1	オリーブ黒色	細礫混粗粒砂	SD1 地山
12	10YR3/1	黒褐色	粗粒砂混極細粒砂	
13	7.5YR2/1	黒色	大礫混極細粒砂	
14	7.5YR3/1	黒褐色	粗粒砂混極細粒砂	
15	2.5Y3/2	黒褐色	細粒砂混極細粒砂	
16	5Y3/1	オリーブ黒色	極細粒砂	
17	10YR4/2	灰黄褐色	極細粒砂	
18	10YR3/3	暗褐色	極細粒砂	
19	10YR3/2	黒褐色	細粒砂	
20	10YR2/3	黒褐色	極細粒砂	
21	2.5Y4/1	黄灰色	粗粒シルト	SD3 埋土
22	10YR3/1	黒褐色	細粒砂混極細粒砂	
23	10YR3/2	黒褐色	細礫・中礫少量混極細粒砂	
24	2.5Y3/2	黒褐色	粗粒シルト	
25	10YR2/2	黒褐色	極細粒砂	
26	10YR4/1	褐灰色	極細粒砂	
27	2.5Y3/1	黒褐色	極細粒砂	SD3 埋土
28	10YR4/3	にぶい黄褐色	極細粒砂	
29	7.5YR3/1	黒褐色	細粒砂混極細粒砂	
30	10YR3/1	黒褐色	細粒砂混粗粒シルト	SZ2 埋土
31	10YR4/1	褐灰色	粗粒シルト	
32	7.5YR3/1	黒褐色	極細粒砂	
33	10YR4/1	褐灰色	中粒砂混極細粒砂	
34	2.5GY3/1	オリーブ灰色	粗粒シルト	SZ1 地山
35	10YR3/3	暗褐色	細粒砂混極細粒砂	
36	10YR2/1	黒色	細粒砂混極細粒砂	SZ6 埋土
37	2.5GY4/1	暗オリーブ灰色	粗粒シルト	
38	2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂	
39	5Y4/1	灰色	極細粒砂	
40	2.5GY4/1	暗オリーブ灰色	細粒砂混粗粒シルト	
41	10YR2/1	黒色	極細粒砂	SZ7 埋土
42	2.5GY4/1	暗オリーブ灰色	大礫・中礫混細粒砂	

第2節 調査の成果

T1調査区について

(1) 基本的な層序

T1調査区の土層は基本的に4層からなる。第1層は2.5Y5/1 黄灰色極細粒砂(耕土)、第2層は7.5Y2/1 黒色大礫混極細粒砂、第3層は10YR3/3 暗褐色細礫・中礫少量混極細粒砂。第4層以下が10YR3/1 黒褐色極細粒砂の地山面となる。(第1表土色・土質一覧表参照)

(2) 遺構

溝状遺構を2条と柱穴を検出した。

1. 溝状遺構 SD1

調査区の南西側で南北方向に確認され、幅1.45m、深さ約0.4mの溝である。溝内では、弥生時代中期の土器片が数点出土した。東側の柱穴は、検出状況や出土遺物から判断して溝状遺構より概ね新しい遺構と推察される。このような周辺と区画することを目的としたような形状の遺構は、先の高月南遺跡第18次調査(2007調査)、高月南遺跡第24次調査(2010調査)において方形周溝墓・古墳として確認されている。

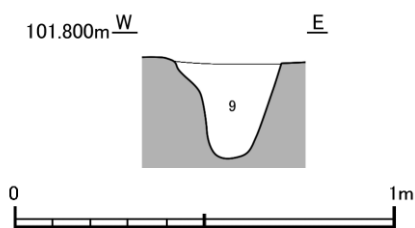
2. 溝状遺構 SD2

調査区の中央から東側に広がる沼沢地の部分で南北方向に確認され、幅0.6m、深さ約0.10mの浅い溝である。溝内からは、遺物等は確認されなかった。検出状況や遺物の出土状況から判断して、他の溝状遺構や柱穴より概ね新しい遺構と推察される。

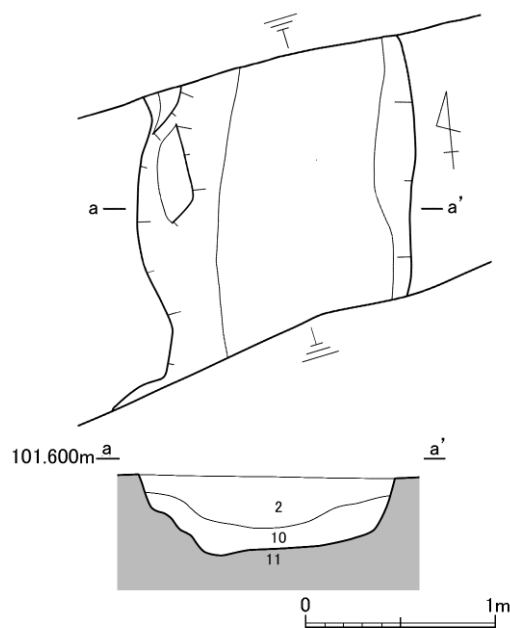
3. 柱穴 SP1

調査区西側、溝状遺構の東で直径0.26mの柱穴を1基検出した。

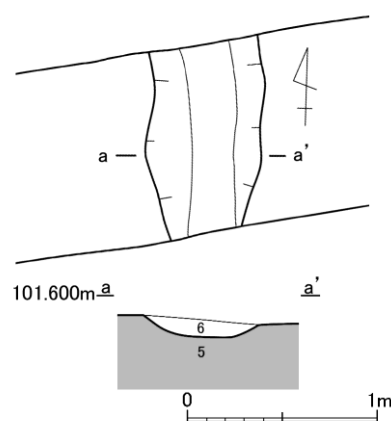
検出状況から掘立柱建物跡や杭列などを構成する遺構としては確認されなかった。



第8図 柱穴 SP1断面図



第6図 溝状遺構 SD1平面・断面図



第7図 溝状遺構 SD2平面・断面図

T 2 調査区について

(1) 基本的な層序

T 2 調査区の土層は基本的に4層からなる。第1層は 2.5Y5/1 黄灰色極細粒砂（耕土）、第2層は 10YR3/3 暗褐色極細粒砂、第3層は 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂。第4層以下が 10YR3/1 黒褐色極細粒砂の地山面となる。

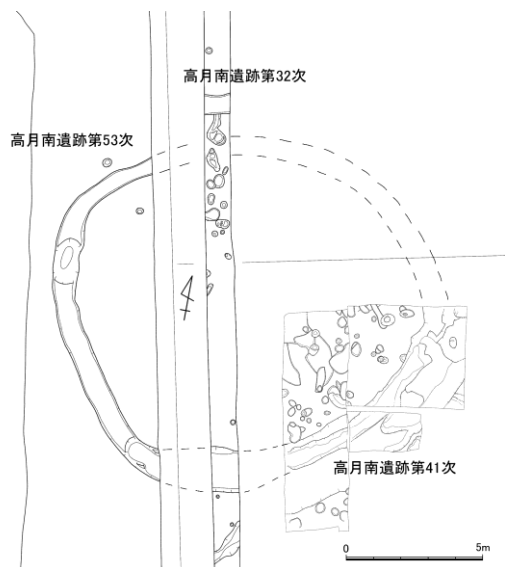
(2) 遺構

T 2 調査区では、古墳5基・土坑5基・溝状遺構4条と掘立柱建物1棟・柱穴23基を検出した。

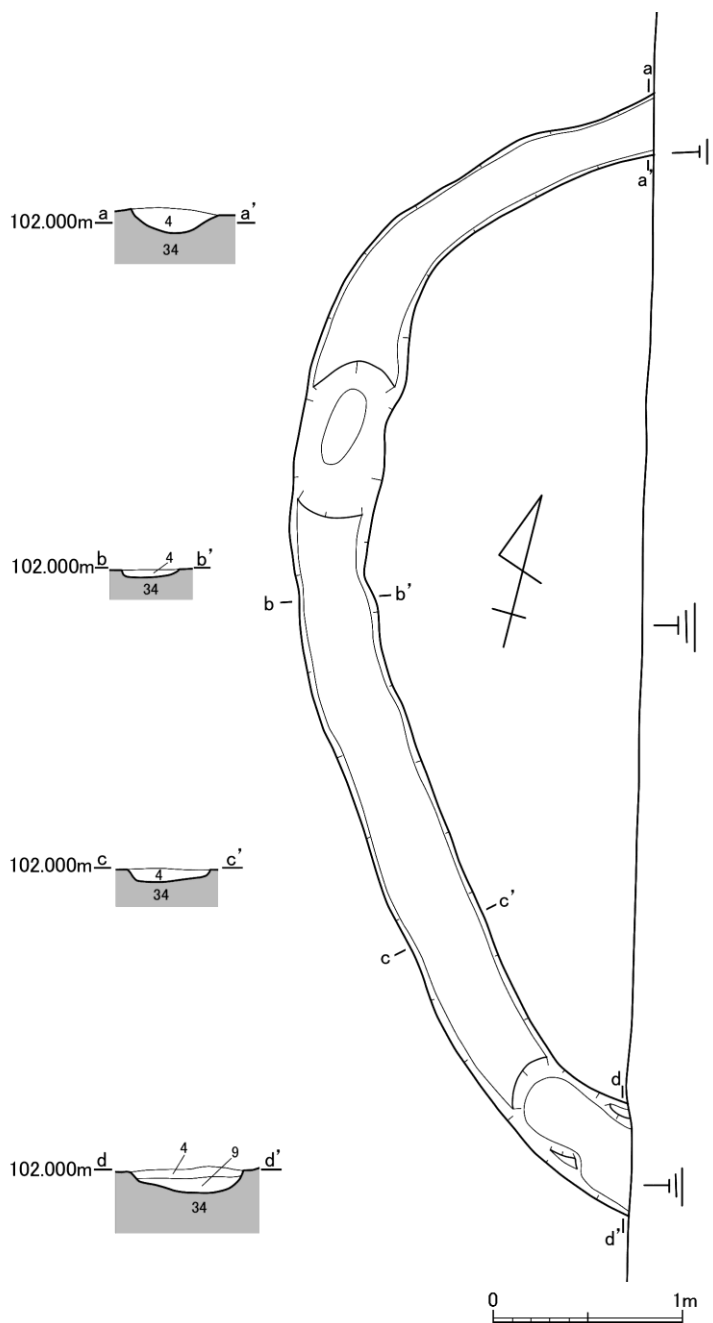
検出された古墳は、墳丘および埋葬施設は削平されており周溝のみであった。

1. 古墳 SZ 1

調査区の北側隅で確認され、長さ13m、幅0.8m、深さ約0.15mの周溝を検出した。溝内では、古墳時代の須恵器・土師器片が数点出土した。周溝は、調査地区外へ伸びるため調査時には全容が不明であったが、以前の調査結果と照合する中で、先の高月南遺跡第32次調査（2011調査）、高月南遺跡第41次調査（2010調査）において確認された周溝と繋がることが判明し、出土遺物から円墳と推察される。



第10図 古墳の位置関係図



第9図 SZ1 平面・断面図

2. 古墳 SZ 2

SZ 1 の南、約 12m で長さ 8 m、幅 0.7m、深さ約 0.24m の周溝を検出した。溝内では、古墳時代の土師器片が多く出土した。周溝は、調査地区外へ伸びるため調査時には全容が不明であるが、周溝の形状や出土遺物から円墳と推察される。

3. 古墳 SZ 3

SZ 2 の南、約 6 m で長さ 8 m、幅 0.5m～1 m、深さ 0.15m～0.30m の周溝を検出した。溝内では、古墳時代の土師器甕・甕・坏身・坏蓋などの須恵器など多く出土した。周溝は、調査地区外へ伸びるため調査時には全容が不明であるが、周溝には陸橋部を持つ。周溝内で確認された土師器甕や須恵器の甕・坏身・坏蓋などは、周溝のほぼ中央部で整然と並んで確認されたことから祭祀的意義を持つ遺物と推測される。

4. 古墳 SZ 4

SZ 3 の南、約 2 m で長さ 2.8m、幅 0.15m、深さ 0.15m の周溝を検出した。溝内では、古墳時代の土師器甕片が数点出土した。周溝の規模は、今回の調査で最も小さい。形状から円墳と推測されるが、祭祀的な意義を持つ遺物の可能性も考えられる。

5. 古墳 SZ 5

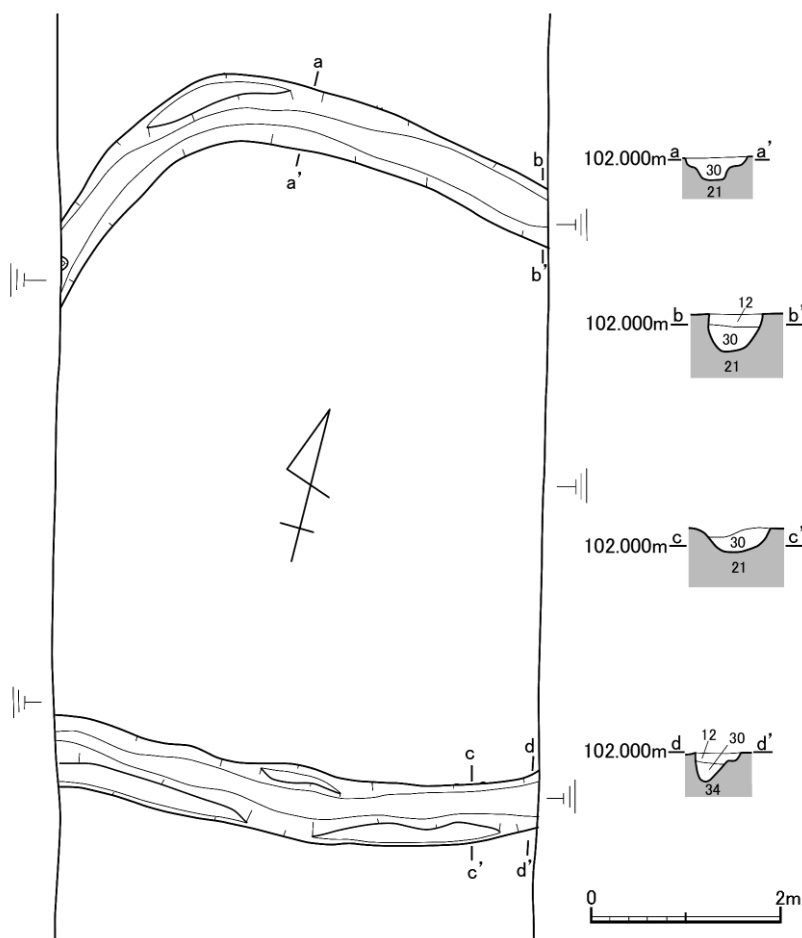
SZ 4 の南、約 9 m で長さ 18.5m、幅 0.25m、深さ 0.25m の周溝を検出した。溝内では、古墳時代の土師器片など多く出土した。周溝は、調査地区外へ伸びるため調査時には全容が不明であるが、周溝の形状から円墳と推測される。SZ 5 は、今回の調査で最も大きい規模の古墳である。

6. 古墳 SZ 6

SZ 5 と隣接し、長さ 11.3m 以上、幅 0.25m、深さ 0.25m の周溝を検出した。溝内では、古墳時代の土師器片や須恵器片などが出土した。周溝は、調査地区外へ伸びるため調査時には全容が不明であるが、周溝の形状から円墳と推測される。SZ 7 と周溝の一部を共有しながら切り合っている。新旧関係は、SZ 6 の方が SZ 7 より古い時期に築造されている。周溝の形状から円墳と推測される。

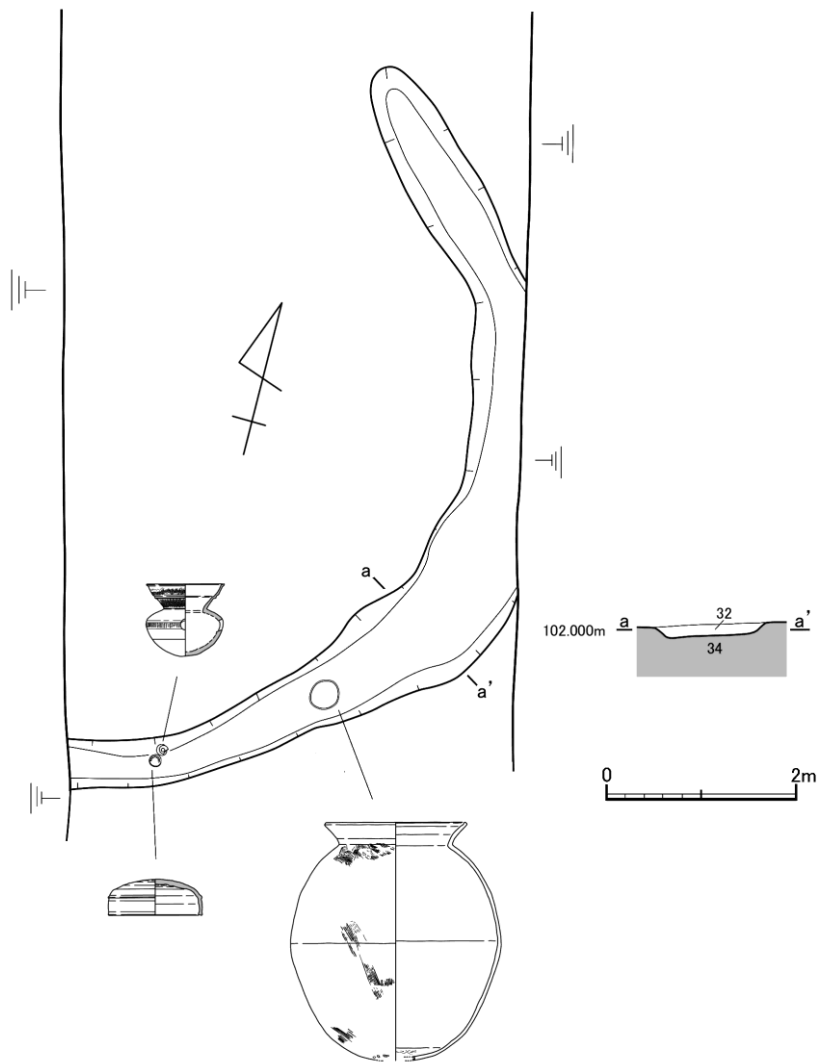
7. 古墳 SZ 7

SZ 6 と周溝を共有しながら南北方向に溝が伸び、南側は沼沢地で削平されている。溝内の出土遺物は、検出されなかった。周溝は、調査地区外へ伸びるため調査時には全容が不明であるが、周溝の形状

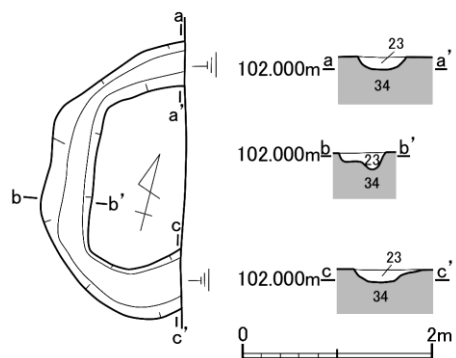


第 11 図 SZ2 平面・断面図

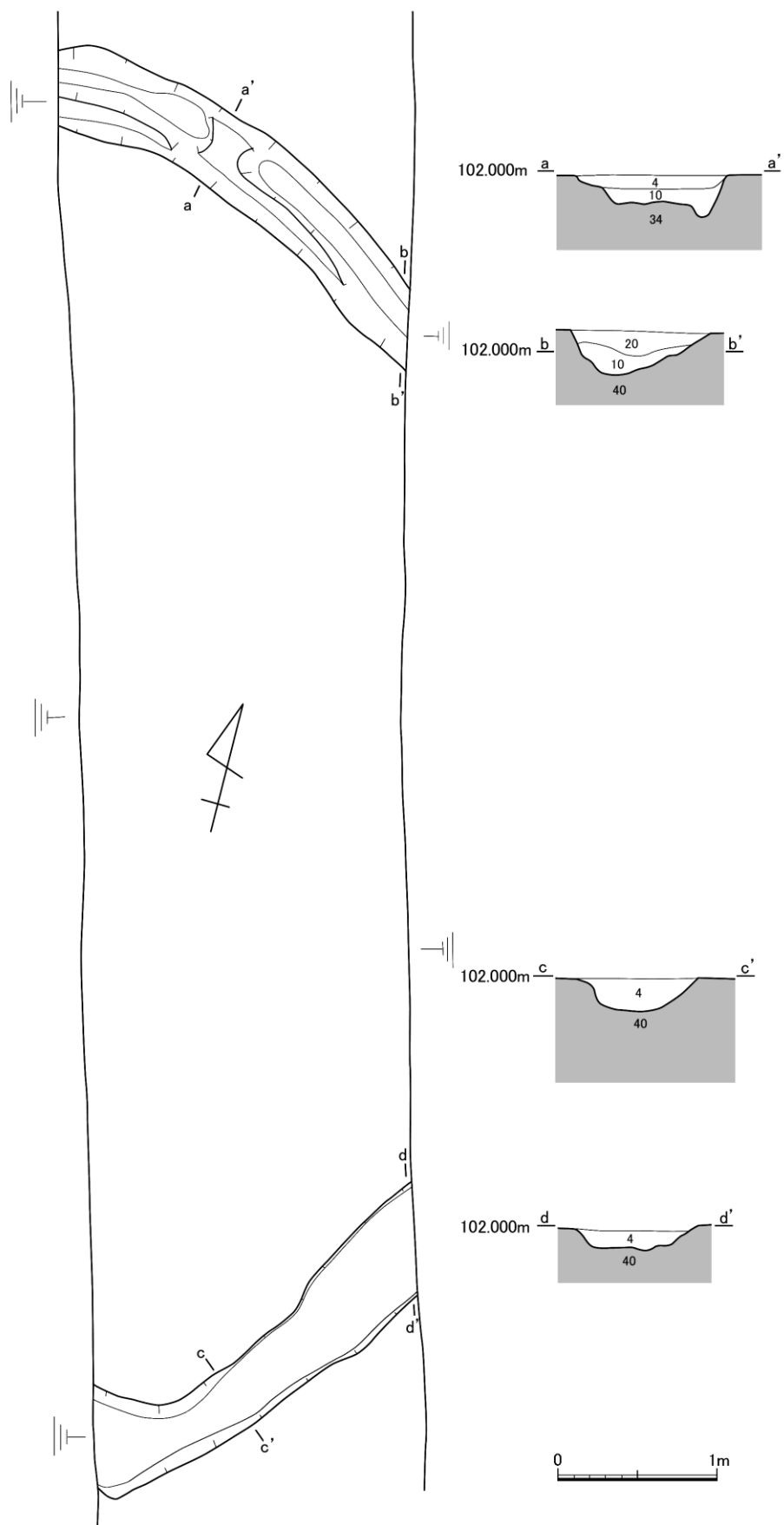
から古墳と推測されるが、年代を確定する遺物の出土がないことから区画溝や水路の可能性も検討される。



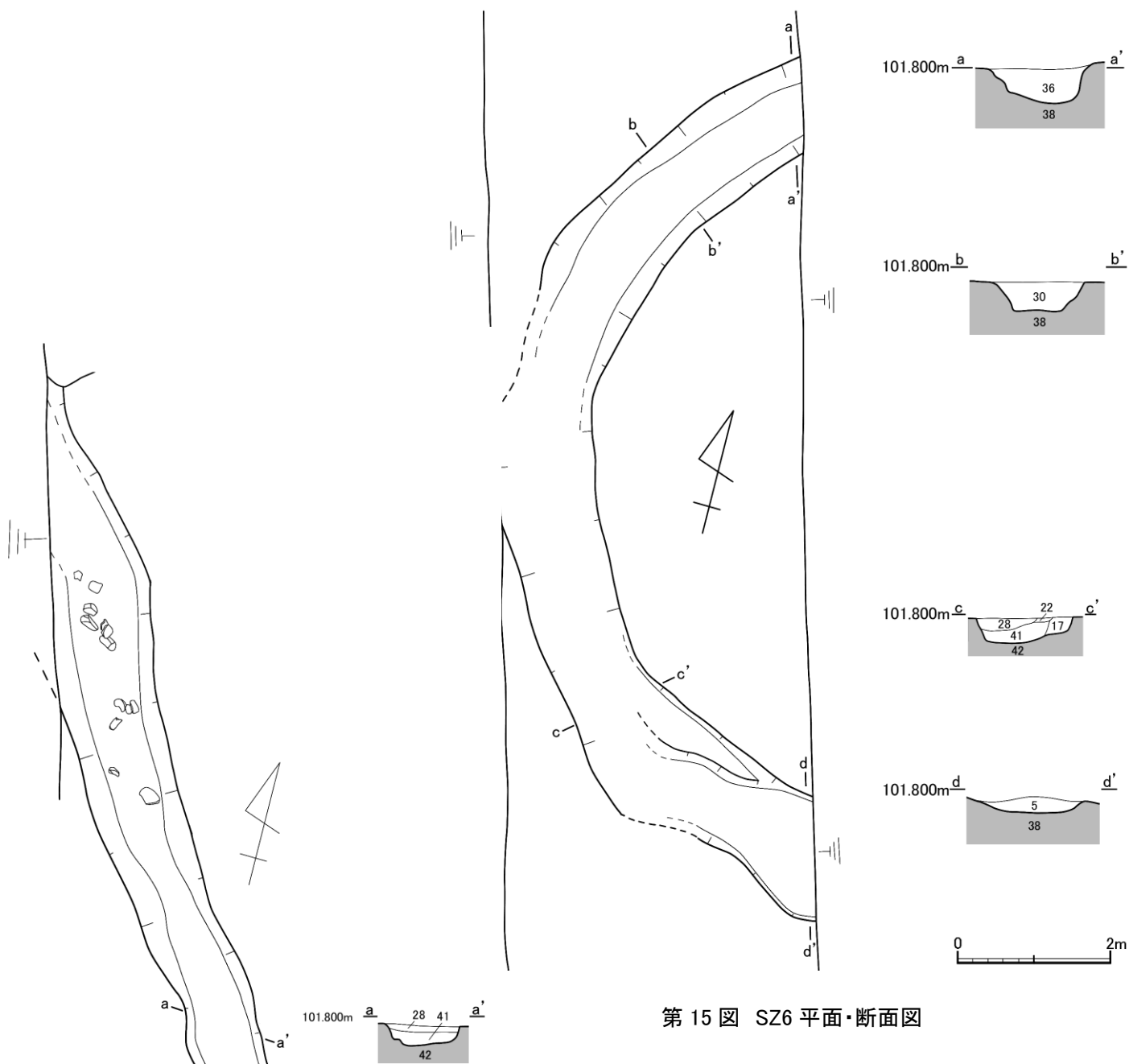
第 12 図 SZ3 平面・断面図



第 13 図 SZ4 平面・断面図



第 14 图 SZ5 平面·断面图



1. 土坑 SK 1

調査区北側、SZ 2 の北で長軸 1.7m、短軸 0.6m 以上、深さ 0.10m の土坑を 1 基検出した。

土坑の南側は、SZ 2 の周溝で削平されていた。

2. 土坑 SK 2

調査区中央、SZ 3 の南で長軸 0.9m、短軸 0.6m 以上、深さ 0.15m の土坑を 1 基検出した。

土坑の南側は、SZ 2 の周溝で削平されていた。

3. 土坑 SK 3

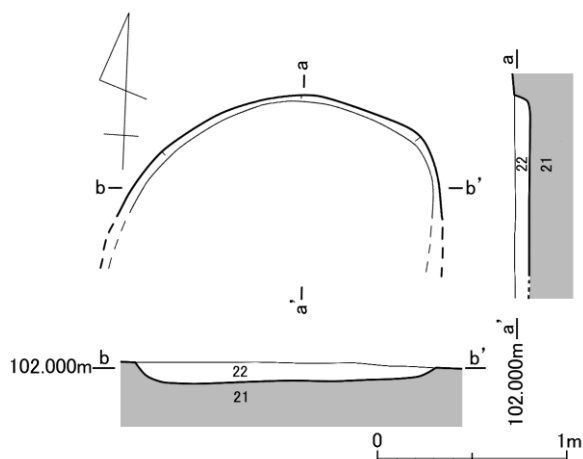
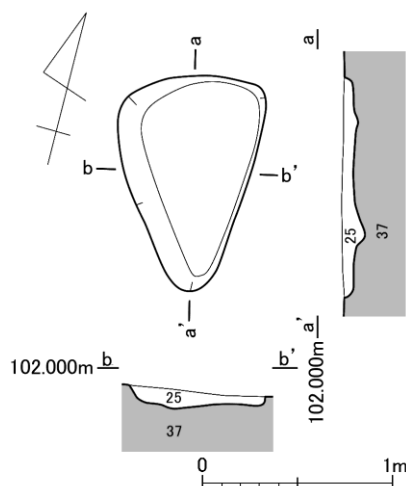
調査区中央、SZ 5 の北で長軸 1.1m、短軸 0.7m 以上、深さ 0.10m の土坑を 1 基検出した。

4. 土坑 SK 4

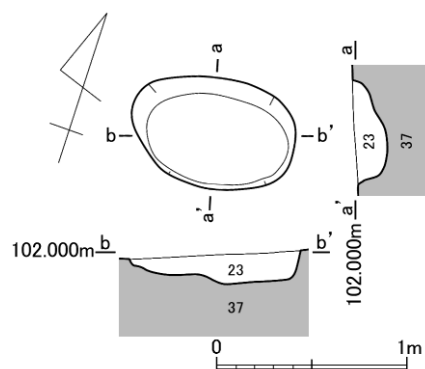
調査区南側、SZ 7 の南で長軸 1.0m 以上、短軸 0.6m 以上、深さ 0.30m の土坑を 1 基検出した。

土坑は、SZ 7 の周溝と SD 3 の溝で削平されていた。

第 19 図 SK3 平面・断面図



第 17 図 SK1 平面・断面図



第 18 図 SK2 平面・断面図

1. 溝状遺構 SD 3

調査区南側、SZ 7 の西で幅 1.0m、深さ 0.5m で、東側は、SZ 7 の周溝で削平されていた。

2. 溝状遺構 SD 4

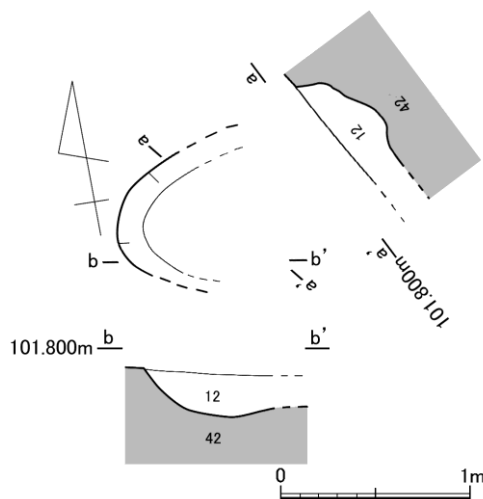
調査区南側、SZ 7 の西で幅 0.7m、深さ 0.4m で、溝内から形状の特異な砥石が検出された。遺構の東側は、SZ 7 の周溝で削平されていた。

1. 掘立柱建物跡 SB 1

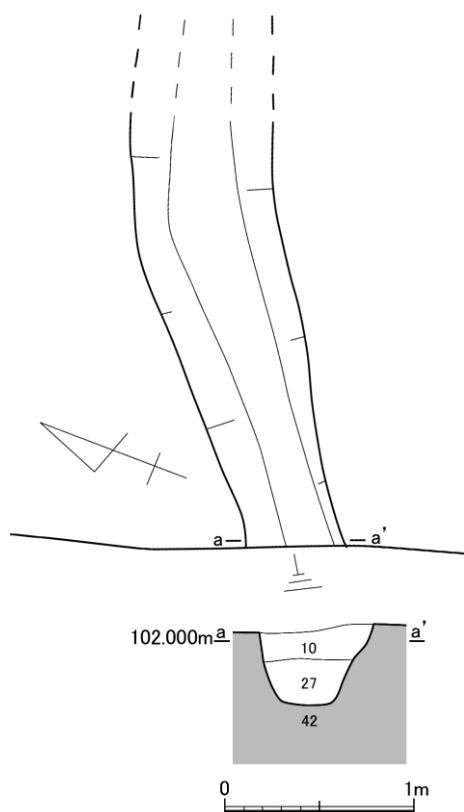
調査区中央、南北 2 間以上 (4.1m 以上)、東西 1 間以上 (1.7m 以上) の建物と推測される。柱穴の並びがさらに調査区外と伸びるため詳細な確認はできなかった。

1. 柱穴 SP2～SP23

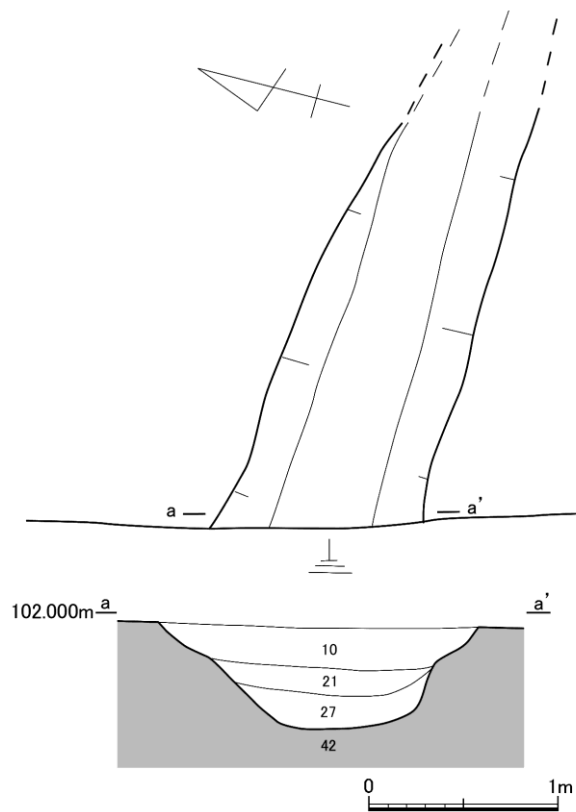
検出状況から掘立柱建物跡や杭列などを構成する遺構としては確認されなかった。



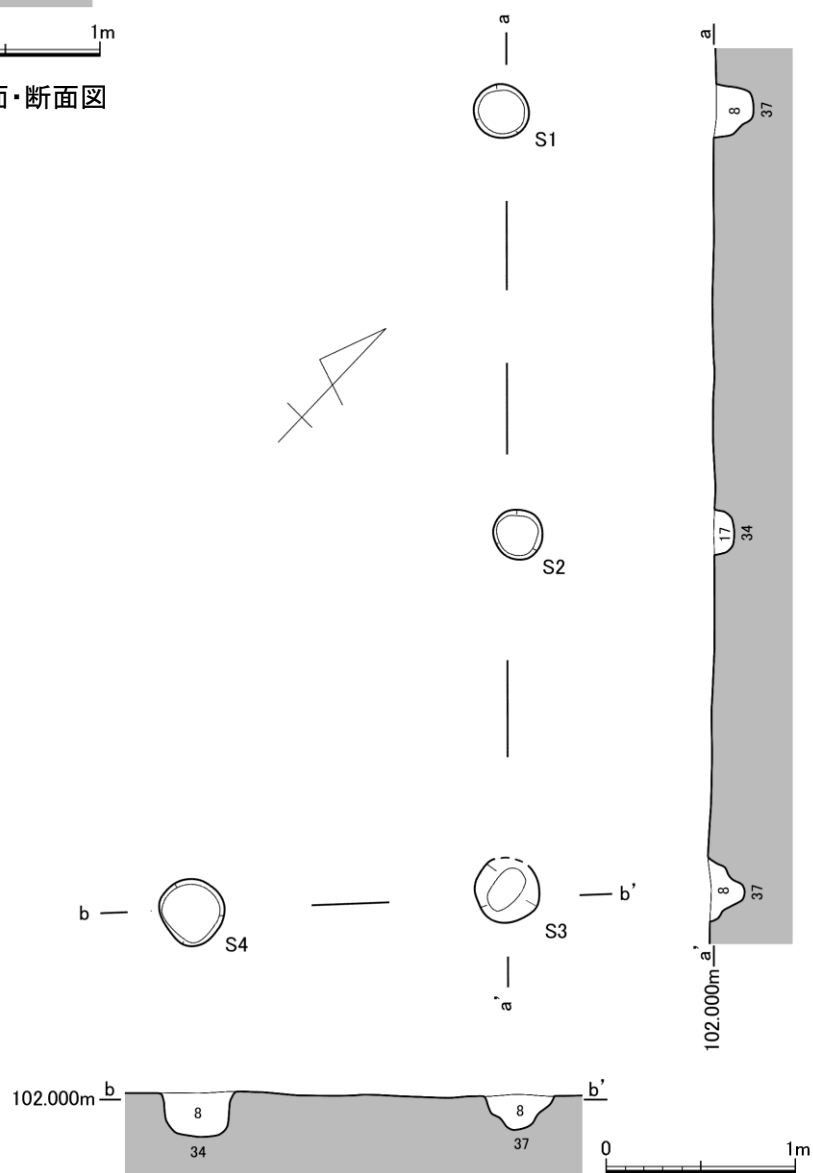
第 20 図 SK4 平面・断面図



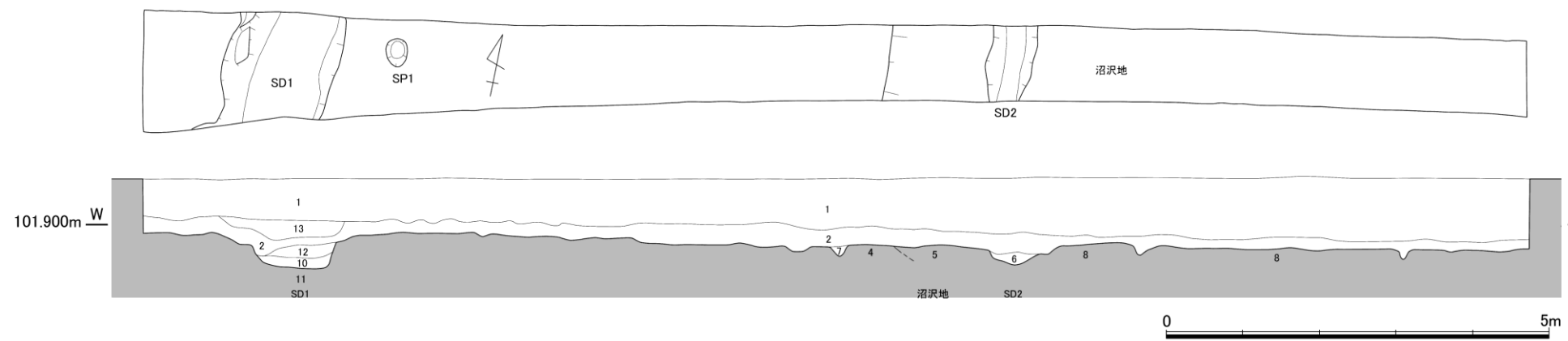
第 22 图 SD4 平面・断面图



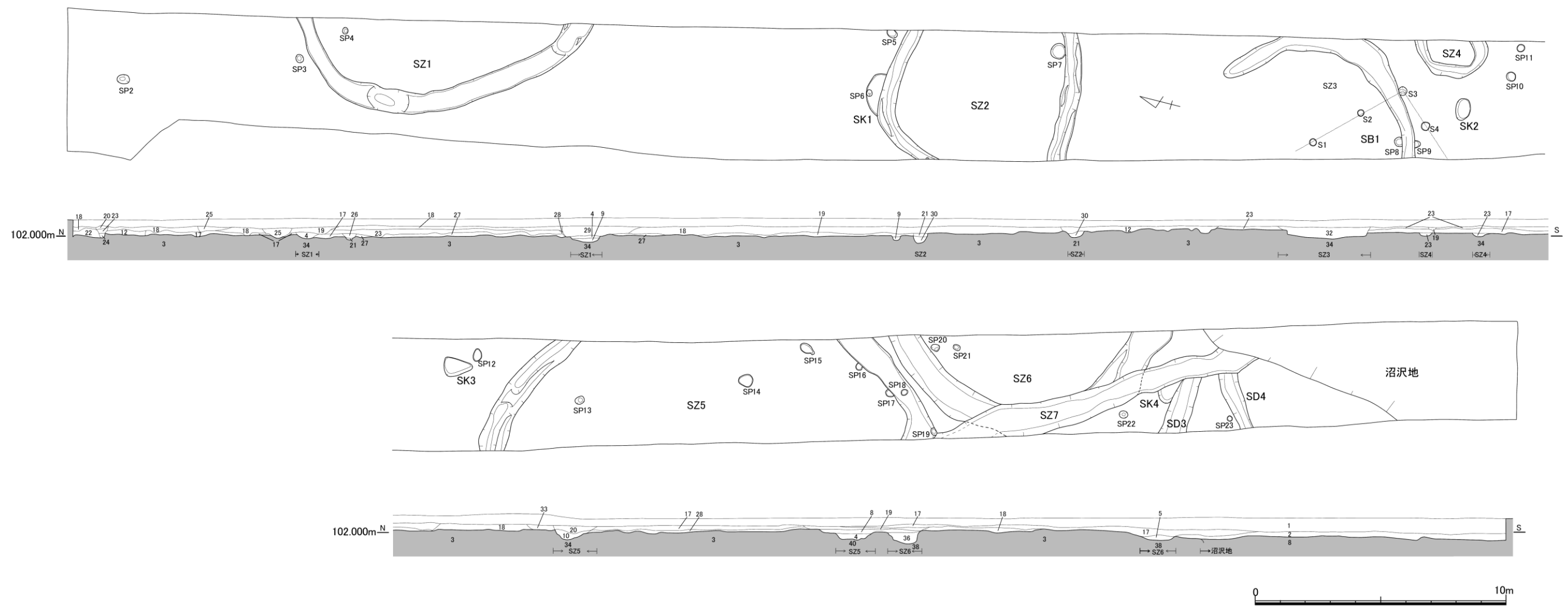
第 21 图 SD3 平面・断面图



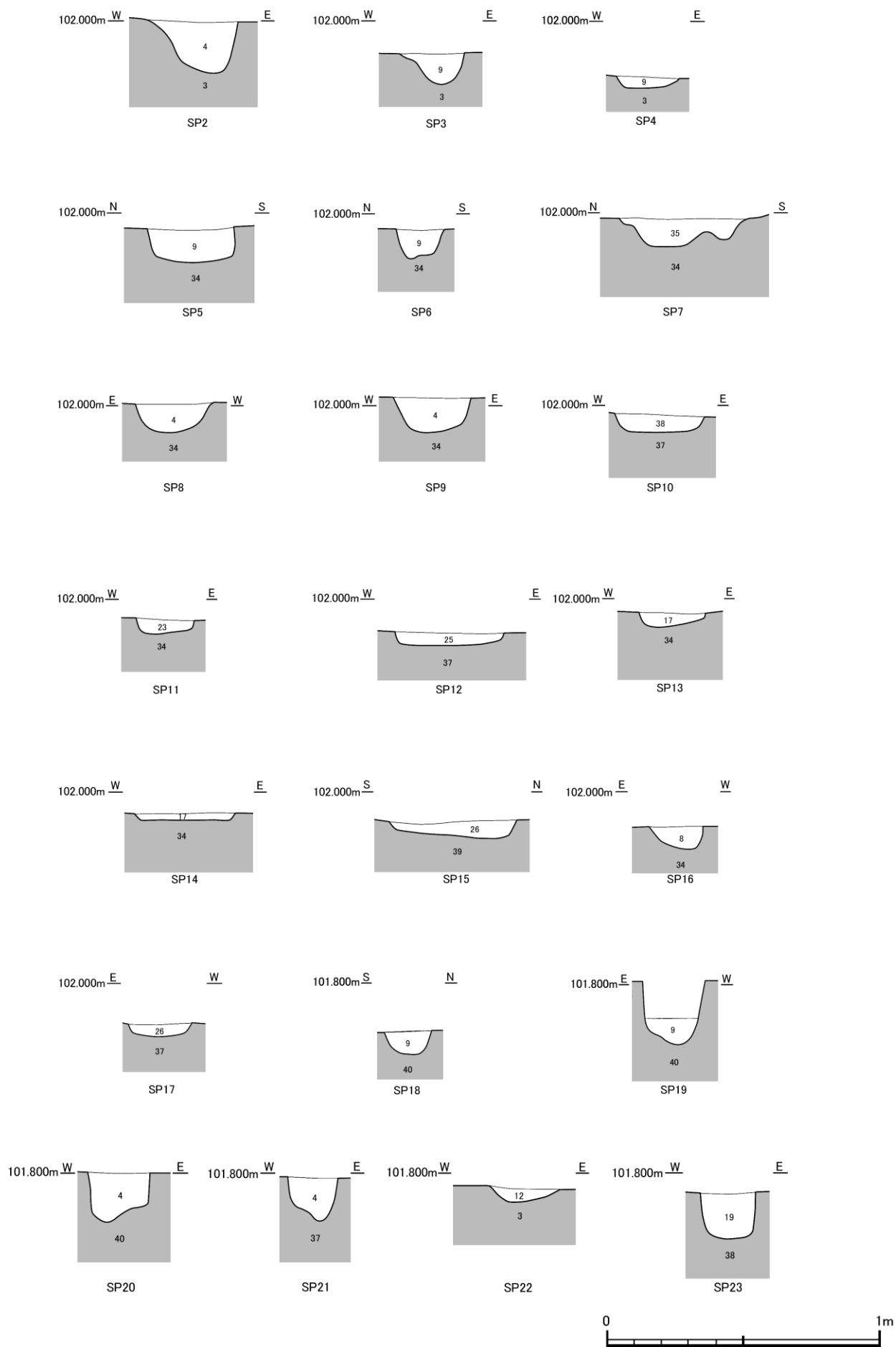
第 23 图 SB1 平面・断面图



第 25 図 T1 平面・断面図



第 26 図 T2 平面・断面図



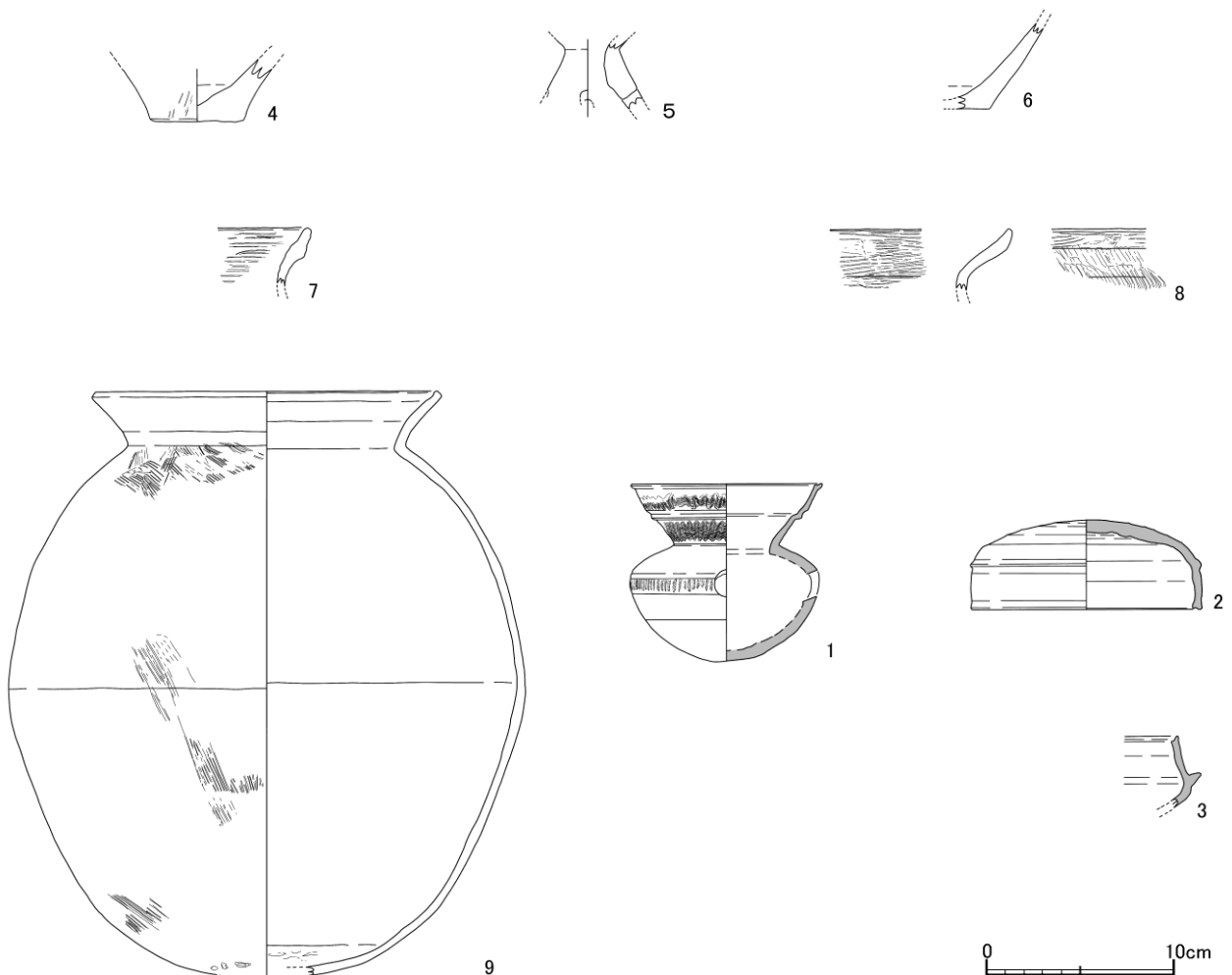
第 26 图 SP 断面图

第2表 高月南遺跡第53次調査遺構規模一覧表

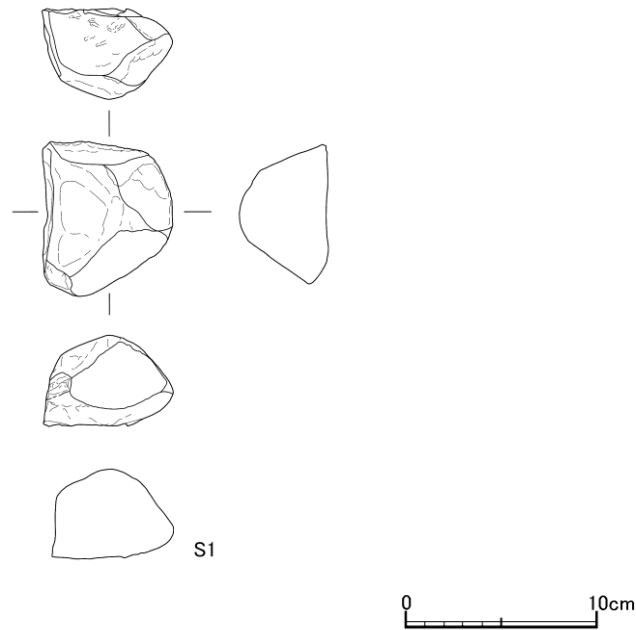
SZ	直径	周溝の幅	深さ	遺物	遺物番号
SZ2	約8m	0.7m	0.24m	土師器片 146点	
SZ3	約8m	0.5~1.0m	0.15~0.30m	土師器片甕1点を含む13点・須恵器(ハソウ)・杯蓋	No.1・2・9
SZ4	28.m	0.15m	0.15m	土師器1点	No.4
SZ5	約18.5m	0.25m	0.25m	土師器片32点	
SZ6	11.3m以上	0.40m	0.40m	土師器片9点・須恵器片1点	No.3
SZ7	不明	0.30m	0.30m	無し	
SK	長軸	短軸	深さ	遺物	形態
SK1	1.7m	0.6m以上	0.1m	土師器片1	楕円形
SK2	0.9m	0.6m以上	0.15m		楕円形
SK3	1.1m	0.7m	0.10m		三画形
SK4	1.0m以上	0.6m以上	0.30m	土師器片1	不明
SD	主軸	幅	深さ	遺物	方向
SD1	N-10° -E	1.45m	0.4m	土師器片52点	南北方向 No.6
SD2	N-11° -W	0.60m	0.1m		南北方向
SD3	N-85° -W	1.00m	0.5m		東西方向
SD4	N-52° -E	0.7m	0.4m	石器1点	東西方向
SB	主軸	桁行	梁間	柱間	床面積
SB1	N-43° -W	2間以上 (4.1m以上)	1間以上 (1.7m以上)	a-a'は、2.2m、1.9m b-b'は、1.7m	6.94㎡以上

(3) 遺物

遺物は、主に古墳の周濠や溝状遺構・ピットから出土した。詳細は遺物観察表を参照していただきたい。



第27図 出土遺物実測図(1)



第 28 図 出土遺物実測図(2)

第3表 高月南遺跡第 53 次調査 出土遺物観察表

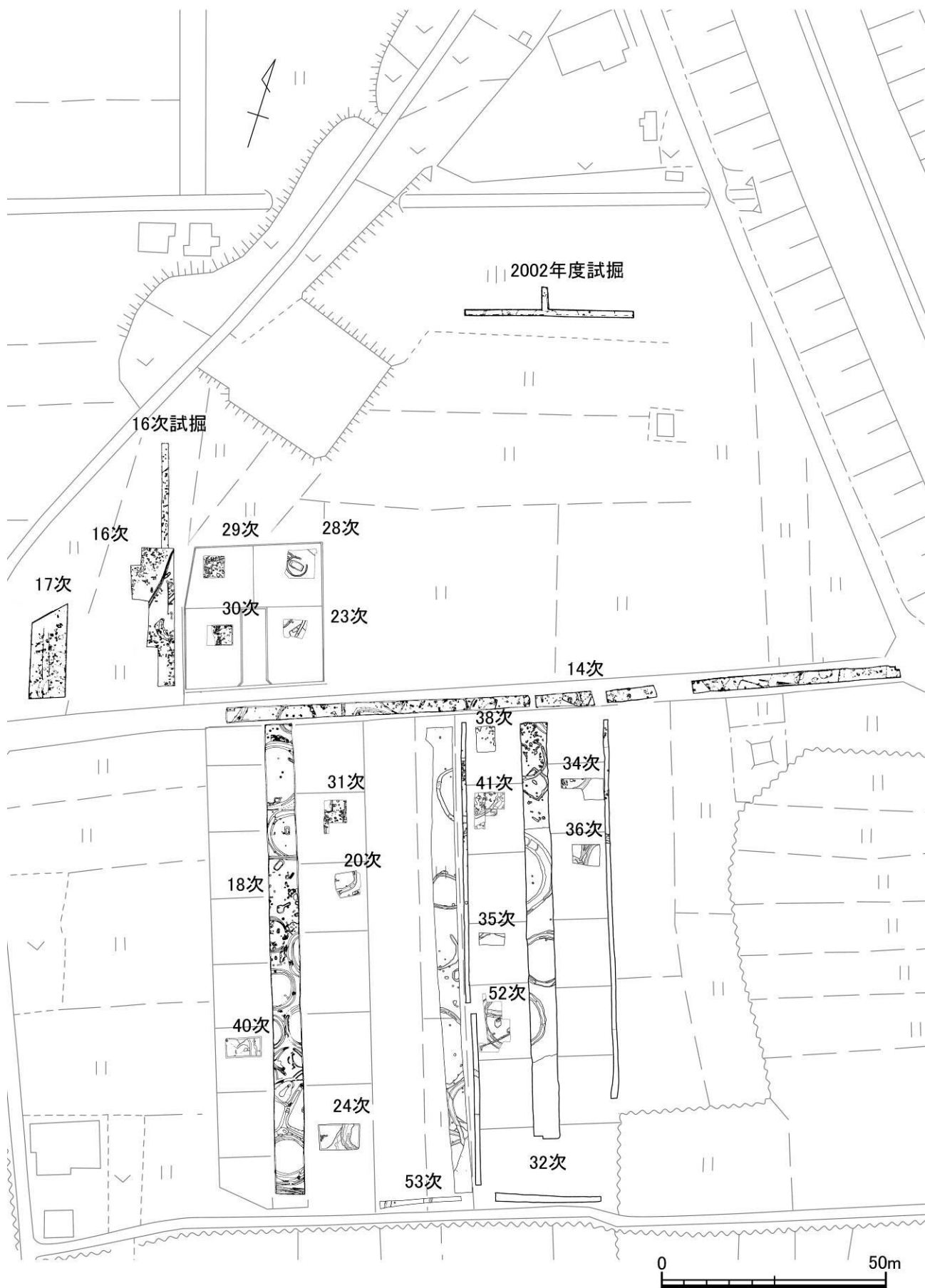
No.	出土 遺構	器種	器形	色調			胎土	焼成	調整		法量 (cm)	残存率	備考
				外面	内面	器肉			外面	内面			
1	SZ3	須恵器	鉢	N5/ 灰色	N5/ 灰色	N7/ 灰白色	やや密 細粒砂を含む	良	回転ナデ・ケズリの ナデ・波状文・沈線・ 刺突文・自然釉	回転ナデ・未調整・ 自然釉	口径 10.2 器高 9.5 最大径 10.2	9/10	
2	SZ3	須恵器	杯蓋	N5/ 灰色	10Y6/1 灰白色	不明	やや密 中粒砂を含む	やや良	ケズリ 回転ナデ 未調整	回転ナデ ナデ 未調整	口径 12.2 器高 4.8	完形品	
3	SZ6	須恵器	杯身	N5/ 灰色	N6/ 灰色	2.5YR5/1 赤灰色	密 中粒砂を含む	良	回転ナデ 自然釉	回転ナデ	残存高 6.8	1/6 (口縁部)	断面実測
4	SZ4	土師器	甕 or 壺	10YR7/2 にぶい黄橙色	5Y4/1 灰色	5Y4/1 灰色	やや密 中粒砂を多く含む	やや不良	不明	不明	復元底径 4.4 残存高 3.3	1/3 (底部)	反転復元
5	SZ1	土師器	高杯 or 器台	5YR7/4 にぶい橙色	5YR7/6 にぶい橙色	N6/ 灰色	密 中粒砂を含む	やや不良	不明	不明 未調整	残存長 3.7	1/10 以下	反転復元 円形透かし4 単位
6	SP7	弥生土器	甕 or 壺	10YR6/1 褐灰色	2.5YR8/2 灰白色	5N/ 灰色	密 中粒砂を含む	やや不良	不明	不明	残存高 4.6	1/4 (底部)	断面実測
7	T1	弥生土器	甕	7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	7.5Y2/1 黒色	粗 中粒砂を多く含む	やや不良	不明	ヨコハケメ	残存高 2.0	1/7 (口縁)	断面実測
8	SD1	弥生土器	甕	10Y7/3 にぶい黄褐色	10YR8/2 浅黄褐色	5Y5/1 灰色	やや密 中粒砂を含む	良	ヨコハケメ タテハケメ	ヨコハケメ	残存高 3.3	1/10 以下 (口縁)	断面実測
9	SZ3	土師器	甕	10Y7/2 にぶい黄褐色	7.5YR8/4 浅黄褐色	10Y3/1 オリーブ黒色	やや密 粗粒砂・長石・石英 を含む	やや良	ハケメ 靱痕あり	不明 指圧痕有り	残存高 31.4 最大胴径 27.6 復元口径 18.2	2/5	反転復元
10	SD4	石製品	砥石								長さ 8.2 高さ 4.7 幅 6.8 重量 365g		砥面2面

第4章 総括

今回の調査区が所在する高月町宇根は、JR 高月駅の南西部に位置し、宅地開発が近年急速に進み、田園地帯の風景から市街地へと様相が変わりつつある。地形は、高時川右岸の微高地と河川で形成された扇状地の南端に位置する。周辺遺跡は、高時川右岸の高月町尾山地先から宇根地先までの約 3.5 km の間に落川遺跡、高月北遺跡、高月西遺跡、大市遺跡や高月南遺跡などが途切れることなく密集して分布していることが確認される。特に今回調査を実施した高月南遺跡は、過去の数次の調査結果において竪穴住居を 450 棟以上、掘立柱建物 200 棟以上の建物群や方形周溝墓・古墳・土坑墓など 70 棟以上を検出している。今回の調査においては、古墳（周溝のみ）を 7 基、方形周溝墓（周溝のみ）1 基と溝状遺構を 4 条、土坑・ピットを数基検出した。特に古墳 SZ3 の周溝内においてほぼ一列に並んで須恵器の甕・坏身・坏蓋と土師器の甕が検出された。年代は、それぞれの形状から 5 世紀後半から 6 世紀初頭と推測される。検出状況から古墳祭祀に関連する供献土器的なものと考えられる。今回検出された 7 基の古墳は、全て円墳で周溝が丸く外周するものと明らかに陸橋部が認められるものの 2 パターンが見られた。古墳の規模は、最大で直径が約 18.5m、中規模で直径が約 8 m～12m で最も小規模の古墳は、約 2.8m であった。古墳の墳丘部や主体部は、築造後の後世における水田開発などにより開墾が進み、築造当時の形態を推量することが困難ではあるが、確認された周溝や土坑などの出土遺物から 5 世紀後半から 6 世紀初頭の古墳群であることが考えられる。高月南遺跡内での発掘調査は、今回で 53 次を数え、遺跡の様相が徐々に明らかになってきた。現在まで明確な縄文時代の遺構は検出されていないが、弥生時代から古墳時代を中心に多くの方形周溝墓・古墳や竪穴建物など検出されていることから複合遺跡として長期間にわたり存在したことが明らかになった。検出状況から弥生時代は居住域と墓域は、共同空間が併設して存在しているようにみられ、古墳時代には、居住域と墓域がかなり明確に区別されているようにみられる。湖北地方における古墳の特色として、今回の高月南遺跡はじめ姫塚古墳など平野部に築造される古墳との比高差が 100m 以上の丘陵上に築造される古保利古墳群に古墳がほぼ同時期に存在することである。高月南遺跡と古保利古墳群の距離は、西に約 2 km と近距離に位置する。古保利古墳群は古墳時代初頭から終末期までの長期にわたり築造されていて、約 100 基以上の古墳が確認されている。立地状況から明らかに琵琶湖を意識した築造である。このような立地条件の差は、集落間の住み分けを示すものか、階層差の違いによるものと考えられるべきか検討が必要である。今後さらに周辺の調査が進めば、これらの資料は湖北地方における古墳時代研究の一助となりうると考える。

参考文献

- 長浜市教育委員会『高月南遺跡』-第 32 次調査報告書- 2012 年
- 高月町教育委員会・長浜市教育委員会『高月南遺跡 I』-高月南遺跡 14 次・16 次・17 次調査報告- 2010 年
- 高月町『高月町史』-景観・文化財編 分冊二- 2006 年
- 長浜市『長浜市史』第 1 巻 1996 年
- 滋賀県教育委員会事務局文化財保護課『平成 22 年度 滋賀県遺跡地図』 2011 年



第 29 図 高月南遺跡南西部発掘調査状況

写真図版



調査前全景（北から）



重機掘削状況（西から）



トレンチ 1 遺構検出状況
（西から）



トレンチ 1 作業風景
(西から)



トレンチ 1 遺構完掘状況
(東から)



トレンチ 1 SD1 検出状況
(東から)



トレンチ 1 SD1 完掘状況
(東から)



トレンチ 2 SZ1 検出状況
(南から)



トレンチ 2 SZ1 完掘状況
(南から)



トレンチ 2 SZ 2 検出状況
(北から)



トレンチ 2 SZ 3 検出状況
(北から)



トレンチ 2 SZ 3 完掘状況
(北から)



トレンチ2 SZ3内
遺物出土状況（北西から）



トレンチ2 SZ3内
遺物出土状況（北西から）



トレンチ2 SZ3・SZ4
完掘状況（南から）



トレンチ 2 SZ 5 (北)・SZ4
検出状況 (南から)



トレンチ 2 SZ 5 (北)・SZ4
完掘状況 (南から)



トレンチ 2 SZ 5 (北)・SZ6
検出状況 (北から)



トレンチ２ SZ５（北）・SZ６
・SZ７ 検出状況（北から）



トレンチ２ SZ６・SZ７
完掘状況（南から）



トレンチ２ 完掘全景
（北から）



1



2



3



S1



6



5



7



4



8



9



粘痕跡

出土遺物(2)

報 告 書 抄 録

ふ り が な	たかつきみなみいせきだい 53 じちょうさほうこくしょ						
書 名	高月南遺跡第 53 次調査報告書						
副 書 名							
巻 次							
シ リ ー ズ 名	長浜市埋蔵文化財調査資料						
シリーズ番号	第 143 集						
編 著 者 名	尾崎 好則						
編 集 機 関	長浜市教育委員会						
所 在 地	〒526-8501 滋賀県長浜市高田町 12-34 TEL0749-62-4111						
発 行 年 月 日	西暦 2014 年 3 月						
所 収 遺 跡	所 在 地	市コード	北 緯	東 経	調 査 期 間	調査面積	調 査 原 因
高月南遺跡 (第 53 次)	滋賀県長浜市 高月町宇根地 先	25-203	35° 27' 42"	136° 14' 04"	平成 25 年 10 月 7 日 ～平成 25 年 11 月 22 日	725 m ²	建売分譲地 造成に伴う 発掘調査
所 収 遺 跡 名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構		主 な 遺 物	特 記 事 項	
高月南遺跡	集落跡 祭祀跡 墓跡墓 工房跡	弥生～古墳	竪穴住居 掘立柱建物 古墳		弥生土器 土師器 須恵器 石製品	特になし	

2014 年 3 月

長浜市埋蔵文化財調査資料 第 143 集
高月南遺跡第 53 次調査報告書

編集・発行 滋賀県長浜市教育委員会 文化財保護センター
滋賀県長浜市東上坂町 981
TEL0749-64-0395 FAX0749-62-6357

印刷 有限会社 おぎした印刷